

脳梗塞を起こしても元気に社会復帰するために知っておきたいこと 第2弾

病院選びが肝心

血栓回収療法ができる病院を事前に探しておく

脳梗塞は、脳の血管が何らかの原因で急に詰まる病気だ。発症したとき、予後を少しでもよくするために知っておくべきことは？

「脳梗塞は、脳の血管が何らかの原因で急に詰まる病気だ。発症したとき、予後を少しでもよくするために知っておくべきことは？」

「脳梗塞を起こしても、今は後遺症なく社会復帰できる率が高くなった。しかし、それは適切な対応をからめとり、回収する。一方、回復の可能性が

「姐があつてこそ、まずは、治療法です」(植田医師)

疑うべき症状が現れれば(以下同)

「1分1秒でも早く救急車を呼ぶ。次に、最新治療を実施している病院でR1検査が行われる。治療を受ける。最新治療は3つに分かれる。もとは、2010年以降、し脳の血管が詰まって脳内で行われるようにならなければならない。細胞の死んでいる範囲が広がれば、血液をサラサラにする薬などの点滴治療(カテーテル(細い管)の先端を患部の血管に挿入し、血栓を溶解させる)が行われる。残念ながら「脳梗塞から入って、脳の血管が進行して回復不可能」だった血栓回収療法(血栓回収療法)といわれる状態だ。

「カテーテル(細い管)の先端を患部の血管に挿入し、血栓を溶解させる」

90%の確率で詰まった血管が再開通する



「た場合で、こちらのいいのでは？」との疑問。少しでも血栓が小さ方が効果が高い。だからについては、併用がいい。くれば血栓回収療法が発症から4・5時間以内か、単体がいいかは、はやいやすくなること、1であれば、tPA静注療法、つまりした薬が出て、tPA静注療法は簡単に療法と血栓回収療法の両方いいとのこと。併用、えるので血栓回収療法を行います。」

「血栓回収療法の方が効果あり、聖マリヤンナ医科大学などから、両方行っている。高いなら、単体でも大丈夫。tPA静注療法。」

治療直後から手足の麻痺が消えた患者も

「血栓回収療法は前述の通りならず、血栓回収療法によって発症後24時間通り、カテーテルを使う。法で完全再開通となった。有効だと分かってきた。ステント型の血。左手麻痺は直ちに。しかし、進行が速ければ血栓回収デバイスを用いて回復、2時間後には意識。8時間以内でも受けられる。し自宅で過ごせるようになった。」

「現在4種類のデバイスがあった。」

「68歳の男性は左手身の生活を送れるようになった。3日目受けられる病院。麻痺と言語障害から発症。本当にうまくい。は限られている。もしも2時間後に聖マリヤンナ。ったケースでは、治療のこと考え、事前に聖マリヤンナ医科大学東横病院脳卒中センターへ、救急搬送。言語障害が完全回復しました。いた方がいい。」

「救急隊員に希望を伝え

「血栓回収療法は、発症後は、よほど遅くなければ8時間まで有効。最近では希望通りの病院へ搬送される率が高くなった。しかし、発症から4・5時間以内で、最新の医療機器を使用し、tPA静注療法では再開は、脳梗塞の広がり具合によって、